

東九州地域の活性化推進に関する要望

2022年8月

東九州軸推進機構
会長 倉富純男



東九州地域の活性化推進に関する要望

2022年8月
東九州軸推進機構

豊かな自然に恵まれた東九州地域は、我が国の食料・木材供給基地であり、温泉をはじめとする観光資源に恵まれ、さらに、東九州メディカルバレー構想による医療機器産業の集積や自動車・ハイテク産業の進出が進んでいます。

しかしながら、九州縦貫自動車道に加え、九州新幹線鹿児島ルートが早期開業し、さらに今秋には西九州新幹線の開業も予定されている西九州地域と比べ、東九州地域の高速交通体系の整備は大きく立ち遅れており、東九州地域のポテンシャルを十分に活かしきれていないのが現状であります。

また、南海トラフ地震等の大規模災害の発生が危惧される中で、今年1月22日には日向灘を震源とする最大震度5強の地震が発生し、災害時における地域住民の生命・財産を守る高速道路の必要性・重要性が改めて明らかとなり、一日も早い社会資本の整備が喫緊の課題となっています。

そのような中、東九州自動車道が北九州市から宮崎市まで広域に開通したことに伴い人流、物流が格段に活発化しておりインフラ整備効果が向上しつつあります。

しかしながら、東九州自動車道の計画総延長 436 kmのうち未開通区間が1割以上残っており、循環型高速道路ネットワークが未だ完成していません。

特に、宮崎以南にミッシングリンク(未開通区間)が存在しており、このままでは南海トラフ地震等の大規模災害時に「命の道」としての機能を果たすことができません。今後のコロナ禍からの復興局面においてもインフラ整備は地域経済を下支えするものであり、雇用の創出をはじめ地域経済の活性化に大きく寄与するものと考えます。

したがって、地方創生の基盤となる地域の産業・経済の発展を支える「活力の道」ともなる東九州自動車道の早期完成及びすべての暫定2車線区間の4車線化、並びに東九州新幹線の整備等による東西格差の是正についても、取組み強化を図る必要があります。

政府におかれましては、東九州地域におけるこのような実情に特段の配慮を賜り、令和5年度政府予算編成にあたっては、次の事項につきまして各段のご高配を賜りますよう強く要望いたします。

I. 循環型高速交通網の整備拡充 (高規格道路等の整備促進)

東九州地域における東九州自動車道等の高規格道路は、農林水産物の販路拡大、自動車関連産業の更なる集積、広域観光ルートの形成や高度医療施設へのアクセス向上など、九州全体の産業・経済・文化の一体的発展を図るうえで、陸・海・空の交通ネットワークの骨格をなす最重要路線である。

また、災害時における高規格道路の果たす役割は大きく、支援ルートや代替ルートとして大きく貢献するなど「命をつなぐ道」としての機能を期待する。

そのため、循環型高速交通網の整備や激甚化・頻発化する災害への防災・減災対策、老朽化対策を含めた国土強靱化のための道路整備が必要不可欠である。

1. 東九州自動車道の整備促進

(1) 未事業化区間の早期事業化

- ・南郷～奈留間

(2) 事業中区間の早期完成

- ・一般国道 220 号日南・志布志道路
- ・一般国道 220 号油津・夏井道路

(3) 暫定 2 車線区間の 4 車線化事業中区間の早期完成

- ・苅田北九州空港 I C～行橋 I C間の約 1.1km
- ・築城 I C～椎田南 I C間の約 7.7km
- ・宇佐 I C～院内 I C間の約 4.6km
- ・大分宮河内 I C～臼杵 I C間の約 6.8km
- ・大分宮河内 I C～津久見 I C間の約 6.0km
- ・津久見 I C～佐伯 I C間の約 3.3km
- ・高鍋 I C～西都 I C間の約 4.7km
- ・宮崎西 I C～清武 I C間の約 3.7km
- ・隼人東 I C～加治木 J C T・I C間の約 7.3 km

(4) 暫定 2 車線区間における 4 車線化の着実な実施

- ・優先整備区間の早期事業化及び未選定区間の追加選定

(5) 休憩施設の更なる充実

2. 九州中央自動車道(九州横断自動車道延岡線)の整備促進

(1) 事業中区間の早期完成

- ・山都中島西 I C～矢部 I C間
- ・一般国道 218 号矢部清和道路
- ・一般国道 218 号蘇陽五ヶ瀬道路
- ・一般国道 218 号五ヶ瀬高千穂道路
- ・一般国道 218 号高千穂雲海橋道路

- (2) 未事業化区間の早期事業化
 - ・ 清和 I C～蘇陽 I C間
- (3) 計画段階評価の早期着手
 - ・ 平底交差点～蔵田交差点間

3. 高規格道路（地域高規格道路）の整備促進

都城志布志道路(宮崎～鹿児島間)、中九州横断道路(大分～熊本間)、中津日田道路、大隅縦貫道などの事業促進

II. 交流・連携に不可欠な社会資本の整備

1. 日豊本線の高速化促進

東九州地域を縦貫する唯一の幹線鉄道である日豊本線の高速化・複線化を実現するため、鉄道整備に係る制度の拡充・強化を図る。

2. 下関北九州道路の早期事業化

既存道路ネットワークの課題の解消及び関門トンネル・関門橋の代替機能の確保、循環型ネットワーク形成による下関・北九州地域の一体的発展のために必要な下関北九州道路の早期事業化を図る。

3. 東九州新幹線の整備計画路線への格上げ

九州域内の新幹線ネットワークを形成する東九州新幹線の基本計画路線から整備計画路線への格上げ、かつ建設財源の確保の早期実現を図る。

4. 北九州空港の機能拡充

東九州自動車道とのアクセスが良く 24 時間利用可能な海上空港であるという特性を活かし、物流拠点化の推進や大型貨物機による安定した離着陸を確保するため、北九州空港の 3,000m滑走路の早期供用を実現する。

5. 港湾機能の強化

北九州港、大分港、細島港、志布志港等において、トラック輸送のドライバー不足や長距離ドライバーの過重労働の解決策とする内航フェリー、RORO船の輸送の効率化及び新規航路の開設、さらに木材等の地域の基幹産業の競争力強化のための港湾整備の促進を図る。

Ⅲ. 産業振興・地域活性化の促進

1. 地方拠点都市地域の整備促進

東九州地域の一体的発展に資するため、「地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律」に基づき、都市基盤整備に関する特段の予算措置を図る。

2. 東九州地域における高度情報通信社会実現に向けた情報通信基盤の整備促進

情報通信技術（ICT）を活用した高度情報通信社会の実現を推進するため、東九州地域における光ファイバー網や第5世代移動通信網等の情報通信基盤の早期整備に向けた施策の充実・強化を図る。

以上

2022年8月

東九州軸推進機構

会長	倉 富 純 男	((一社)九州経済連合会会長)
副会長	津 田 純 嗣	(北九州商工会議所会頭)
副会長	吉 村 恭 彰	(大分商工会議所会頭)
副会長	米 良 充 典	(宮崎商工会議所会頭)
副会長	岩 崎 芳 太郎	(鹿児島商工会議所会頭)
副会長	津 田 純 嗣	(福岡経済同友会代表幹事)
副会長	後 藤 富 一 郎	(大分経済同友会代表幹事)
副会長	平 野 亘 也	(宮崎経済同友会代表幹事)
副会長	津 曲 貞 利	(鹿児島経済同友会代表幹事)